

鈴木正治さん (1919.11.13-2008.4.19) の世界



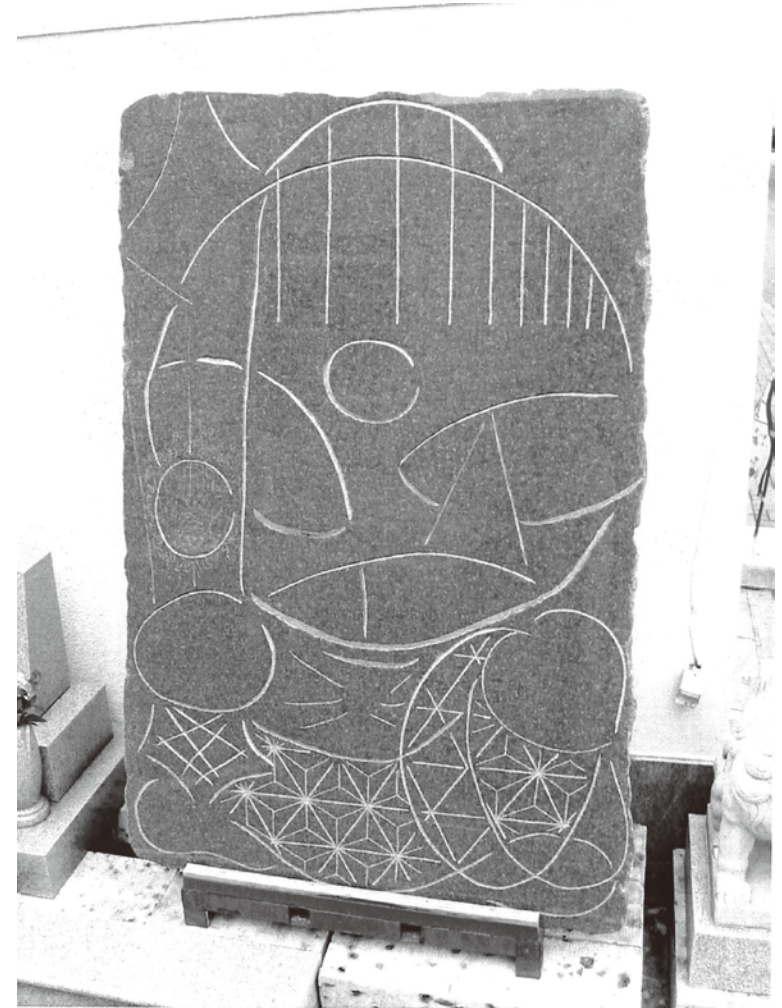
タンジュー

代表作の一つです。作品のモチーフ（主題）は、仏教の開祖のお釈迦様が生まれた時の姿です。

淡いピンク色の大理石に鈴木さんが、自分で電動切削機を使って彫りました。当社で保管していた大理石の板に滑らかに曲線が描かれています。

石の面をいっぱいに使った見事なデッサン力ですね。左上の石の引っ張りを右手を高く上げるポーズに使っています。柔らかい大理石の色合いに、生まれたばかりのブツダの暖かい表情が調和しています。

(当社の月見野工場に展示 月見野霊園のすぐ手前)



ウゴカズ

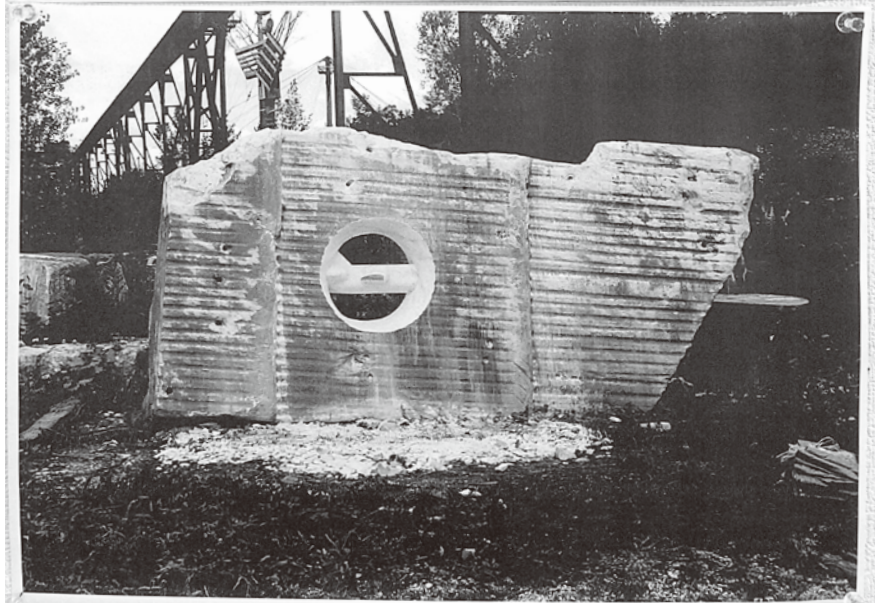
不動明王を彫刻しています。

怖い表情で、右手に剣を持ち悪者に立ち向かい、左手の綱で取り押さえる。それでも決して殺しはしない。悔い改めるように諭す仕事をしているのだと、鈴木さんがよく説明をしていました。悪人にさえも慈悲の心を向けているということですね。

(当社の本店に展示 堤町のリンクステーションバス停前)

鈴木正治さんの世界（アメリカ篇）

1998年6月、アメリカのNPOの招待で鈴木さんが、バーモント州に2ヶ月間滞在した際に、地元新聞が記事にしました。タイトルは「彫刻家の訪問 命の再生」



当時78才。大理石鉱山が廃業した跡にできたNPOの CARVING STUDIO
そのディレクターが岩手県の野外彫刻展に来日した際に見た鈴木先生の作品に魅せられ、バーモントに招かれました。インタビューに応じています。
「私は芸術家ではない。生きていない物の声が聞こえるだけ。」
「私がしていることは誰にでも出来る。私は見える物を作り直している。その命が私に描いて欲しいと言われるとおりに描いているだけだ。」と



カービングスタジオの風景



ボストンの民宿の入り口で
左から2番目が招聘してくれたディレクターのキャロルさん、鈴木さん、同行した石岡さん
ちなみに後ろの建物が宿泊した家で、建築後200年とのこと。地震がないとはいえ、手入れをして長く使う文化が根付いています。